

# 令和7年度「下水道研修会」の開催

- **GKPチーム九州**は、福岡市道路下水道局のご協力のもと、中部水処理センターで**下水道研修会**を開催
- 先進の下記取組を体感することで、主に**若手会員の知見拡大と技術力向上**を図った
  - ①下水から水素をつくる“世界初”**水素ステーション**
  - ②日本一の供給箇所数を誇る**再生水処理施設**
  - ③濃縮汚泥貯留槽の**防食更新工事**
- **意見交換会**では、所属組織や世代の枠を越えた交流を通じ**GKP活動への理解深化、チーム九州の連帯感を醸成**

## <研修会概要>

- ◆ 日 時 : 令和7年10月14日(火) 14:00~19:30
- ◆ 参加者 : **45名** (設計コンサル・メーカー等の若手社員、大学教授ほか)  
※引き続いて行った意見交換会には38名が参加



# 研修会の様子



田中代表 挨拶



市担当者から受講



水素ステーション



再生水処理施設



コンクリート劣化確認

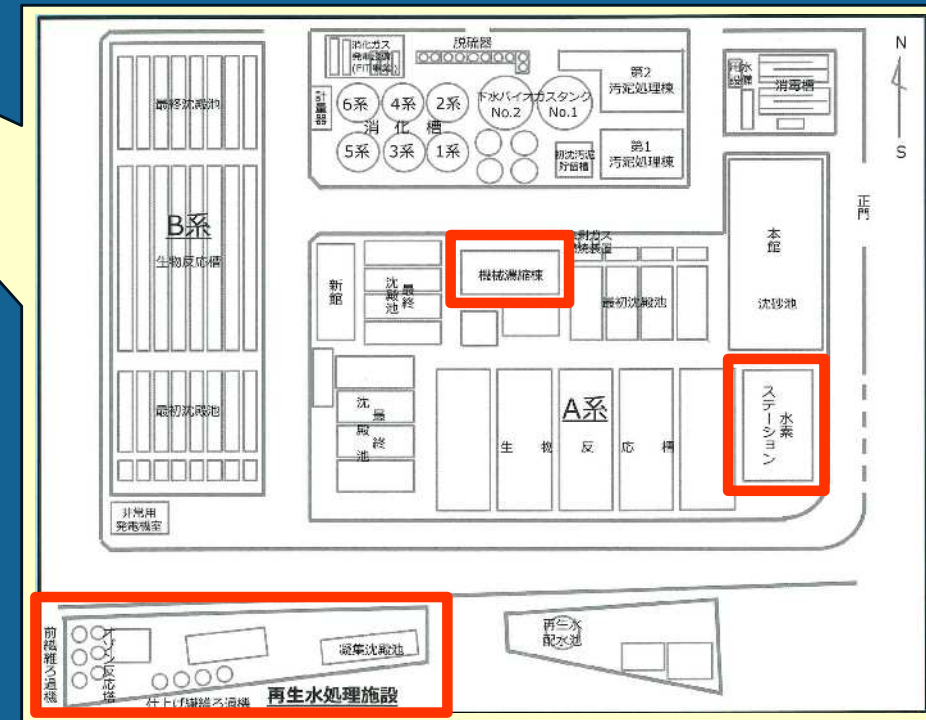
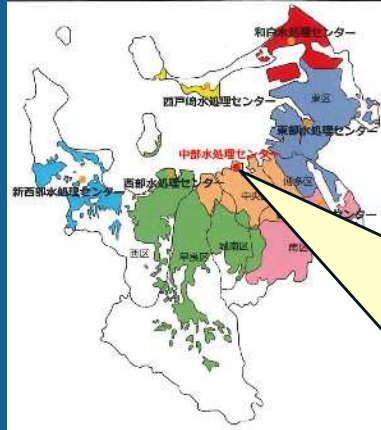


意見交換会

# 福岡市・中部水処理センターについて

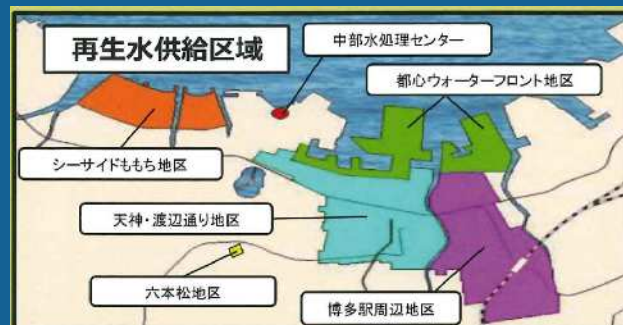
## <概要 (R5.3.31時点)>

- ・ 処理面積 2,715 ha
- ・ 処理人口 400,928 人
- ・ 処理能力 300,000 m<sup>3</sup>/日
- ・ 処理方式 嫌気好気活性汚泥法
- ・ 敷地面積 74,378 m<sup>2</sup>
- ・ 供用開始 1966年7月



## 今回見学施設

出典：福岡市配布資料



福岡市は市内に1級河川がなく、地理的に水資源に恵まれておらず、昭和53年には287日間に及ぶ給水制限を経験しました。この大渇水を契機に、下水処理水を貴重な水資源としてとらえ、トイレの洗浄用水や樹木の散水用水として再利用する「再生水利用下水道事業」に昭和54年に着手しました。

当センターの再生水処理施設は昭和55年度から供給を開始し、下記区域の1,020haに再生処理水を供給しています。

- ・ 天神・渡辺通り地区 350ha
- ・ シーサイドももち地区 138ha
- ・ 博多駅周辺地区 345ha
- ・ 都心ウォーターフロント地区 180ha
- ・ 六本松地区 7ha



## 下水から水素をつくる“世界初”の水素ステーション

市民の生活排水（下水）を処理する過程で発生するバイオガス（再生可能エネルギー）から水素をつくり、燃料電池自動車（FCV）へ供給を行う“世界初”の水素ステーションです。

都市部の水処理センターで水素を製造・供給できるため、エネルギーの地産地消が実現できます。

### 共同事業

福岡市、西部ガス、正興電機製作所、豊田油商、西日本プラント工業、三菱化工機、九州大学